

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもち、互いを認め、助け合う行動がとれる児童の育成

(1) 主題設定の理由

思いやりの心を実際の言動として表現することを大切にし、今まで以上に互いの人権を尊重しあい、助け合う人間関係を築いていける児童を育てることを目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 特別活動や総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ② 体験・交流活動ができる場の設定

2 実践内容

【児童会活動の取り組み】

(1) 挨拶運動

J R C 委員会と児童会本部の児童を中心に、毎朝昇降口で挨拶運動を行っている。人とのコミュニケーションのきっかけとなる挨拶を、全校児童に身に付けてほしいと願って活動を続けている。

(2) 集会活動

- ・1年生を迎える会では、1年生から6年生までがじゃんけん列車で繋がり、楽しく交流した。
- ・縦割り班活動では外遊びや読み聞かせなど、高学年は低学年のことを考えて活動の計画立案をし、実際の活動の場面では全体のことを考えたり、低学年を優しく面倒をみたりしていた。中学年は自分の責任を果たしながら活動を楽しみ、低学年は高学年に支えられながら、ルールを守って楽しく活動していた。
- ・アメリカからの友達と、英語の歌を歌ったりゲームをしたりして交流を楽しんだ。
- ・児童集会では、やおやさんゲームや間違い探しゲームをして、全校で盛り上がった。楽しく異学年交流活動をする中で、互いを認め、助け合うという体験を積むことができた。

【第5学年の取り組み】

(1) 福祉体験活動

車イスやアイマスク体験、高齢者の疑似体験などの活動を行った。障害をもつ人や高齢者の日常生活の大変さを知り、社会的弱者や困っている人にどのような手助けができるかを学び、考えることができた。

(2) 諏訪交流センター「さわやかクラブ」での発表

おじいさんやおばあさんに対しての感謝と尊敬の気持ちをメッセージと歌の発表で伝えた。「さわやかクラブ」は諏訪交流センターで月に1回行われている高齢者向けの活動である。発表を涙を流しながら聞いてくれている姿やたくさんの温かな拍手をもらった児童は、互いの気持ちがつながる瞬間を体験して感動し、気持ちを伝えることの大切さを感じていた。

<発表内容>

私たちは、ひいおじいさん・ひいおばあさんから、おじいさん・おばあさんへ、そして両親から私たちへと受け継がれてきた命を、今、生きています。

両親やおじいさん・おばあさんに大切に見守られながら、今を生きています。

私の両親は働いています。学校から帰ると「お帰り。」とむかえてくれるのはおばあさんです。私が話をすると、「すごいね。」「がんばっているね。」と声をかけてくれてうれしくなります。

ぼくのおじいちゃんは子どもが大好きで、いつもぼくと遊んでくれます。おばあちゃんとも仲良しです。

私のおばあさんは、いつも畑仕事をしていておいしい野菜を作ってくれます。

近所のおじいさん・おばあさんはいつも挨拶をしてくれて、とても温かい気持ちになります。

私たちも人のために行動できるやさしい人になります。

もし、おじいさんやおばあさんが困っていたら助けたいです。重い荷物を持っていたら、持ってあげたいです。歩くのが大変だったら手を貸したいです。

(3) おじいさん・おばあさんへの手紙

今年度「敬老会」が中止になったことで、地域のお年寄り全員にコミュニティから物品が届けられた。その中に、5年生児童からの手紙があり、ある夫婦はとてもうれしく感動したということで返事を書いてくれた。児童と高齢者の間に交流が生まれた。

(4) 「人にやさしく」の活動

総合的な学習の時間の活動として、人のために何ができるか考えてグループごとに実践した。

<活動例>

- ・1年生に対して休み時間に「転がしドッチボール」や「スタンプ作り」を行ったり、朝の時間に2年生の教室で読み聞かせを行った。
- ・同級生に対して、昼休みを使って学習会を開いたり、悩み相談会を開いたりした。
- ・休み時間に先生への感謝の会を開き、マッサージをしたり出し物を行ったり感謝の手紙を渡したりした。
- ・立哨当番の方や見守り隊の方に感謝の手紙を書き、下校時にお礼の言葉とともに手渡した。
- ・朝、曜日を決めて、門や校庭の落ち葉掃きをした。

<活動後の感想>

- ・1年生が笑ってくれると心が温かくなってうれしくなった。活動後は人の気持ちを考えて言葉を発するようになった。
- ・1年生も2年生も喜んでくれて、私もうれしくなった。人にやさしくすると自分もうれしくなるんだと思った。
- ・人に教えることは難しいと分かって、先生たちはそれを教えられますのすごいいと感じた。
- ・先生たちみんなに「ありがとう」と言ってもらえて、活動をしてよかったと思った。両親にもマッサージなどをしてあげたいと思った。活動後は手伝いをするのが多くなったし、他の人にやさしくもできている。
- ・感謝の手紙を少し恥ずかしかったけれどきちんと渡すことができた。
- ・お手伝いをするのが気持ちよくなるので家でもお手伝いをしたい。
- ・誰かが一生懸命掃除をしているからきれいになっていると気付いた。掃除をしてくれている人に失礼だからゴミは捨てられない。
- ・学校の掃除は面倒だと思っていたが、諏訪小学校の掃除をするということはとても誇らしいと思うようになった。

3 成果

児童は体験によって人との関わりに関する様々なことに気付くことができた。自分が投げかけた気持ちが相手に伝わり、それを返してもらえたときに互いの中に温かな空気が流れ、それは大変すばらしいものであると感じることができた。人に支えられていることを実感した児童は、自ら人のために何かしたいと考えるようになり、進んで活動を始めることができた。そして、人にやさしくと考えて活動した児童が相手に喜んでもらったと感じると、自分もうれしくなるという自分の心の変化に気付くことができた。人が互いの人権を尊重しながら生きる基本的な心のあり様を自然に感じ取ることができたのである。5年生の総合的な学習の時間の活動後の感想から、自分の周りの人に対する見方が変化し、行動の仕方も変わってきていることが分かる。

II 今後の課題

道徳や学活の授業、また体験活動で感じた人権意識がさらに豊かに育っていくよう、児童のよい気付きを認め、それが言動となって表れるように促したり、よい気付きの生まれる体験の場を計画的に設けるなどして、継続的な指導を心がけていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

本年度も人権メッセージに全校児童で取り組み人権コーナーに各クラス代表のメッセージを掲示した。また学級でも、道徳コーナーなどで自分の感じたことや友達のよさを伝えたりした。

